

研究課題 胃癌における新規血清バイオマーカーの診断能評価とその血中移行機序に関する研究 に関する情報公開

1. 研究の対象

2015年以降に当院で、胃癌と診断され、手術または抗癌剤治療を受けられた方。また、1998年1月から2015年までの期間に手術を行い、試料（血液、病理材料）や診療情報が保管されている方。

2. 研究目的・方法

胃癌は、アジアを中心に罹患率の高い疾患であるとともに、いまだ進行胃癌は遠隔転移や切除後再発を高頻度にくらし、予後不良である。スクリーニング、治療方針決定のための進行度診断、治療の効果判定、切除術後の再発モニタリングのいずれの場面においても、非侵襲的かつ簡便に採取可能な血清で測定が可能な優れた腫瘍マーカーの開発が必要である。本研究では、我々が先行研究において胃癌の悪性度に関与する分子として同定した Anosmin-1 (ANOS1), Melanoma-associated antigen D2 (MAGE-D2), Dihydropyrimidinase-like 3 (DPYSL3)の3分子の血清値について、至適カットオフ値の設定を含め、国際共同研究による大きな検体数での validation を行うことと、これらの分子の細胞内局在や血中への移行機序を解明することを目的とする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病理診断結果、術前血液データ（腫瘍マーカー（CEA、CA19-9、CA125、AFP）、白血球数、好中球数、リンパ球数、血小板数、総蛋白、アルブミン、プレアルブミン、レチノール結合蛋白、トランスフェリン、コリンエステラーゼ）、性齢、術前身長、体重、術後予後（再発、転帰）を含めた疾患経過 等

試料：血液、新鮮切除標本から採取した組織、病理部保存の検体 等

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関である韓国 Cancer Research Institute, Seoul National University Hospital, Seoul National University College of Medicine（ソウル大学がん研究センター）から匿名化された試料および診療情報の受ける。試料は国際便で種類ごとに適切な温度管理のもと、配達記録を明確にして郵送する。データの提供は、個人情報を含まない電子ファイルにパスワードロックをかけて特定の関係者以外がアクセスできない状態で電子的配信にて行う。連結表および診療情報データベースは、それぞれ別々の施錠可能な医局内に固定されたパソコンに保存し、ファイルには常時パスワードロックを行い、当施設の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

名古屋大学医学部附属病院消化器外科二・教授・小寺 泰弘

韓国 Cancer Research Institute, Seoul National University Hospital, Seoul National University College of Medicine (ソウル大学がん研究センター)・Professor・Han-Kwang Yang

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学医学部総務課：TEL：052-744-1901

名古屋大学医学部附属病院 消化器外科二

助教・神田光郎

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

TEL：052-744-2249

FAX：052-744-2252

e-mail：m-kanda@med.nagoya-u.ac.jp

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院 消化器外科二

教授・小寺泰弘

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

TEL：052-744-2233

FAX：052-744-2252

e-mail：ykodera@med.nagoya-u.ac.jp